

襦とハリマ産業を知ってもらいたくて

ハリマニュース

ハリマ産業株式会社 〒270-2241 千葉県松戸市松戸新田129-1

TEL : 047-368-2511 / FAX : 047-368-0204 / URL : <https://www.harima-sangyou.co.jp/>

2020
Winter
NO.9



料金後納
郵便

創業50周年のごあいさつ


日頃より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。2020年、お陰様でハリマ産業は創業50周年を迎えます。弊社が属するふすま業界には創業が江戸時代にまで遡る会社もありますので、ハリマ産業はまだ歴史の浅い会社ですが、住宅業界に関わる多くの方々、地域の皆様、関係各所の担当者様のご尽力によって守られてきた50年という視点に立てば、これは立派な物語であるという熱い思いが込み上げます。新しい時代に向かって何が出来るか、試行錯誤しながら日々を送っております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、2020年は創業50周年ということで、ハリマ産業の物語を良いところだけ掻い摘んでご紹介したいと考えております。(笑)

ハリマ産業の物語は大久保敏行(先代)が埼玉県飯能市でダンボール襦の製造販売を行う会社をスタートさせるところから始まります。この頃すでに関東には東海、川上をはじめ、その他にも巨大なふすま屋がありましたが、昭和45年という時代は、それでも供給が間に合わないくらい仕事があった時代でした。

(次号につづく)

ハリマ産業株式会社
代表取締役 大久保謙一

昭和45年	埼玉県飯能市で大久保敏行がダンボール襦の製造販売を行う会社として創業 当時のお客様は建具問屋様
昭和46年	千葉県松戸市秋山に移転 建具店への直販に乗り出す 取付工事をはじめたのはこの頃
昭和60年	ホルナス蝶番を開発 
昭和61年	千葉県松戸市松戸新田(現在の地)に 本社工場が完成
平成11年	業界他社に先駆けダンボール襦の生産を 中止し、和襦に切り替える



トラックには「アルミ入りダンボール」「高級フスマ」の文字
左は現専務(大久保重人)、右は現社長(大久保謙一)

CALENDAR 2020

休業日

2月

工場見学受付中/

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

3月

繁忙期突入 納期確認を/

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

4月

GW直前 ご注文はお早めに/

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

HARIMA ハリマニュースがウェブサイトになりました！

【WEB版】ハリマニュース <https://www.harima-news.com/>



創業50周年記念企画として、『ハリマニュース』をウェブサイトにして一般公開いたしました。紙面に書き切れなかった記事や写真を掲載する他、ウェブ版限定の情報もお届けする予定であります。ふすま業界とハリマ産業のことを多くの人々に知っ

て欲しい！『ハリマニュース』はそんな思いからスタートいたしました。インターネット上に公開することによって、ハリマ産業は恐らく自分たちでは気付くことが出来ない未来の可能性を知ることが出来ると考えております。どのような人々が訪れ、どのような情報に興味を持ち、どのような行動を起こすのかを分析することで、求められている形を知ることが出来ます。この時代、誰でもわかっていることですが、それをど真面目にやり遂げてみようというのが50周年記念の取り組みです。知識と経験のあるハリマ産業だから出来る、そんな風に言って頂ける会社に成りたいと願っております。



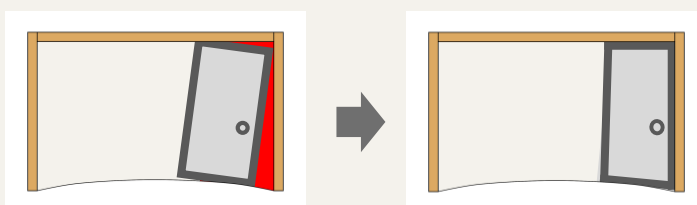
2020年3月5日(木) 公開
【WEB版】ハリマニュース
スマートフォンからもご覧頂けます
<https://harimasangyou-news.com/>

STYLE 斜めのふすま

🗨️ 困ったときは畳屋さんに相談？

突然ですが、皆様のお宅に「開け閉めし辛くなっている襖」や「閉めてもお部屋の光が漏れてしまう襖」はありませんか？家を建てたばかりの頃はこんなことはなかった、いつの間にかこうなったという、所謂「年月」を感じさせる現象です。一体どうしてこうなるのかというと、襖が納まっている「枠」が歪むからなのです。（襖の反り・捻じれが原因であることもあります。）枠の歪み方は色々あり、その原因も様々です。図は中でもよくある歪み方の一例です。敷居が盛り上がってしまったことにより襖が枠にピッタリ納まらなくなっています。さて、このような状況を解決するにはどうしたら良いのでしょうか？枠を直せば一番良いように感じますが、枠は壁と一体化しており、外すとすると大掛かりな工事になってしまいます。これを嫌がるお客様は多いので、襖を枠に合う形に作り直したり、既存の襖を削って調整したりと、あくまで襖を調整するようにします。そして、このとき作り直す襖は「斜めの襖」なのです。業界では「曲がりをとる、コケをとる」などと

呼びます。この斜めの襖を正確に作れることが襖屋であるハリマ産業の強みであり、リフォーム案件でハリマ産業にお声が掛かる理由です。更に特筆すべきこととして、採寸のエキスパート「畳店様」の存在があります。斜めの襖を作るには、まず歪んだ枠の正確な採寸が必要になります。これを行っているのが地域に根ざす畳店様であるということ、どのくらいの方がご存知でしょうか？次回は採寸のエキスパート「畳店様」のお仕事をご紹介します。



よくある枠の歪み方

枠の歪みに合わせた襖

※掲載内容はあくまでハリマ産業のやり方・考え方であり、他社のやり方・考え方を否定するものではありません。また、図は理解しやすくするために大袈裟に表現しています。

INFORMATION

◆『ハリマニュース』定期刊行について

情報誌『ハリマニュース』は、2・4・6・10月の年4回発行です。

◆皆様のご意見・ご感想をお寄せ下さい

掲載内容についてのご意見・ご感想をお寄せ下さい。建具に関する内容については、弊社の思い込みによる間違い、また地域差もあると考えております。ご指摘頂ければ励みとなります。